アンケートにご協力いただき、
誠にありがとうございました

水害に関するアンケート

【住民意識調査結果の概要】

桐生市民の皆様

　最近のゲリラ豪雨の多発や台風の巨大化などによる水害が全国各地で発生しています。桐生市では、幸いにして、昭和22年のカスリーン台風以来、大きな水害は発生していませんが、全国各地で発生している水害をもたらす豪雨は、カスリーン台風当時の降雨量を超える状況であり、桐生にもそのような豪雨が発生しないとは言い切れません。

　今回、市民の皆様に水害に対する意識や備えの状況などについて伺った「水害に関するアンケート」をとりまとめました。今後、この結果から見えてきた課題を踏まえ、市民の皆様も含めた各主体が連携して“水害による犠牲者ゼロ”を目指したまちづくりに取り組む所存です。

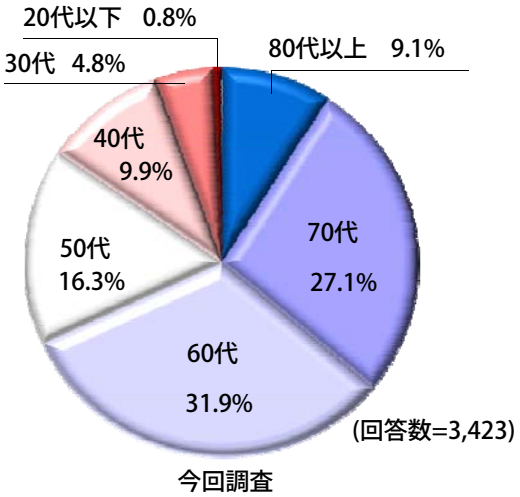
桐生地区水害に強いまちづくり研究会

《調査概要》

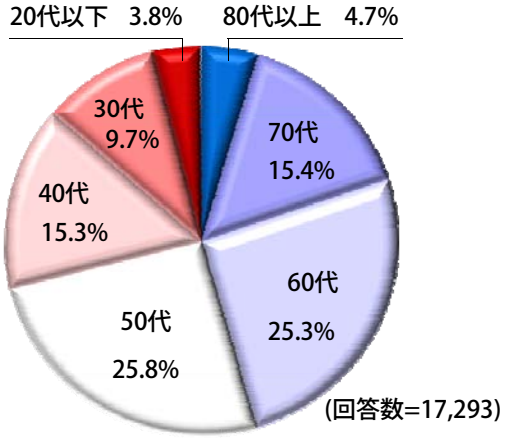
実施時期	平成22年2月1日～21日
調査対象	桐生市洪水ハザードマップにおいて、浸水が予想される地域を含む町会に加入されている市民の皆様を対象に実施
調査票配付数	28,193票
配付・回収方法	町会・自治会長を経由した訪問配付/郵送回収
回収状況	3,704票（回収率13.1%）
調査項目	1. 渡良瀬川・桐生川の洪水に対する意識 2. 渡良瀬川・桐生川などが決壊した状況に対する意識 3. 気象警報に対する意識 4. 避難情報に対する意識 5. 災害が発生しそうな状況下における避難意向 6. 洪水ハザードマップ・避難場所に関する知識 7. 防災対策に対する考え 8. 近所つきあいの程度 9. 個人・世帯属性

【回答者の年齢】

今回は郵送回収ということもあり、水害の関心が高いと思われる高年層の方に多くの回答をいただきました。



今回調査

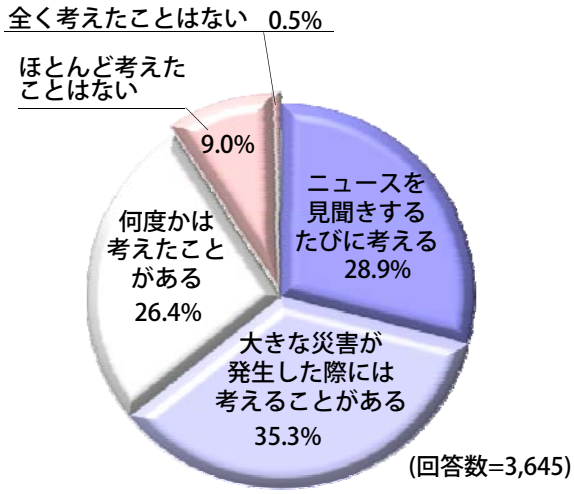


［参考］H11年第一回住民アンケート結果

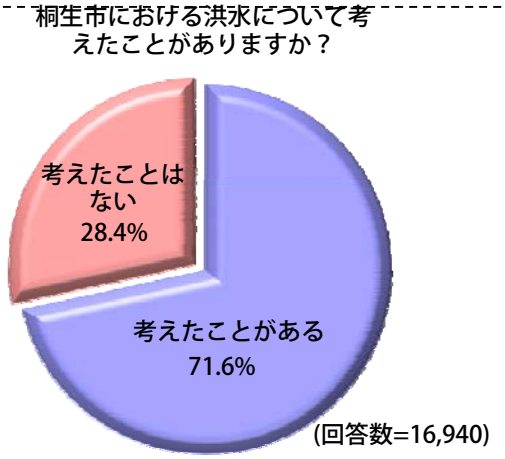
【水害に関する関心】

９０％の回答者が水害について考えたことがあると回答しています。

Q.災害に関する報道を見た際、そのような災害が桐生市において発生する可能性や発生した場合の状況について考えたことがありますか？



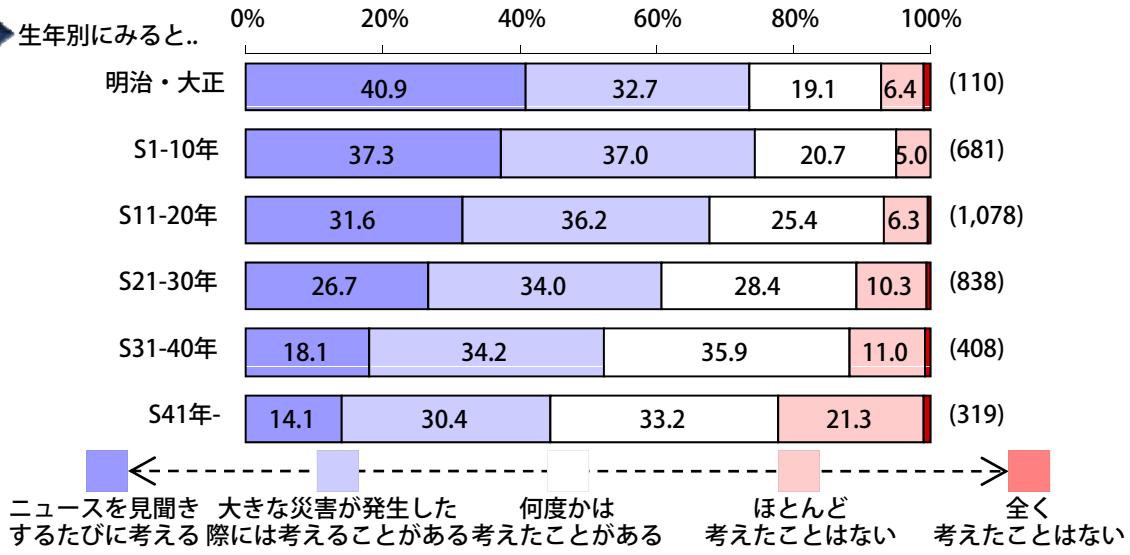
今回調査



［参考］H11年第一回住民アンケート結果

しかし、年齢が若くなるにつれて、水害への関心は低下する傾向があります。

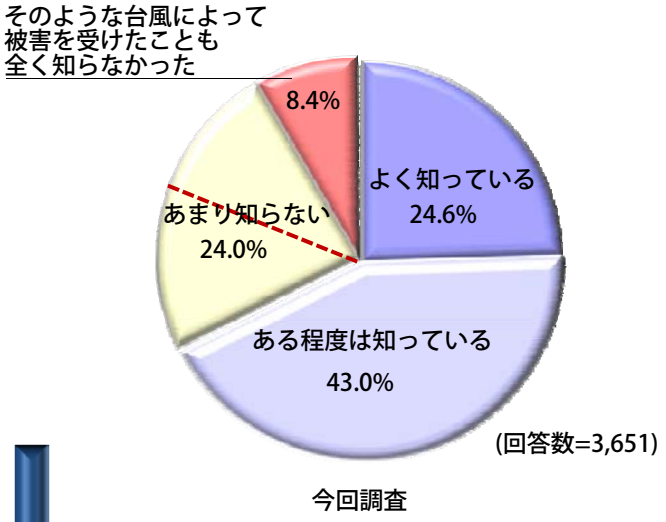
生年別にみると..



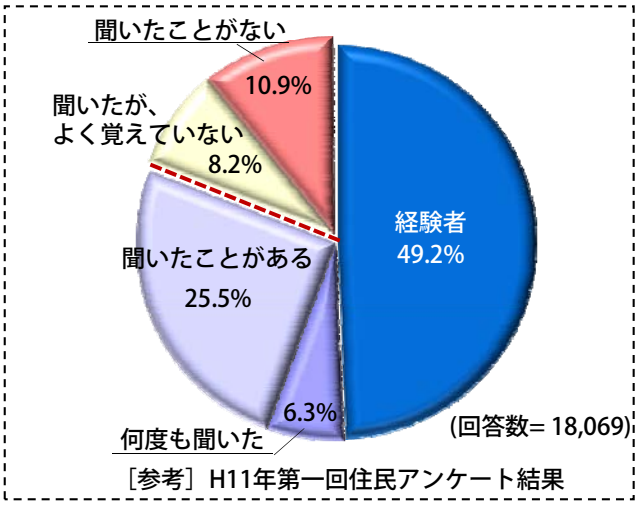
【カスリーン台風の認知度】

1／3の回答者が、桐生市でのカスリーン台風の被害を知らないと回答しています。

Q.カスリーン台風による桐生市の被害の様子について知っていますか？

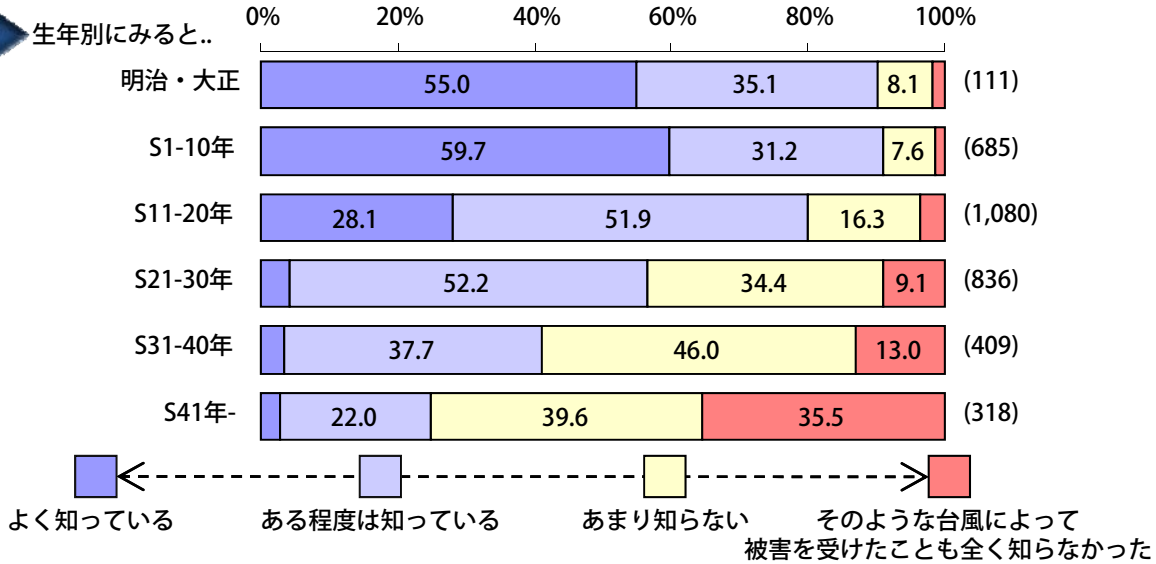


Q.カスリーン台風について、話を聞いたことがありますか？



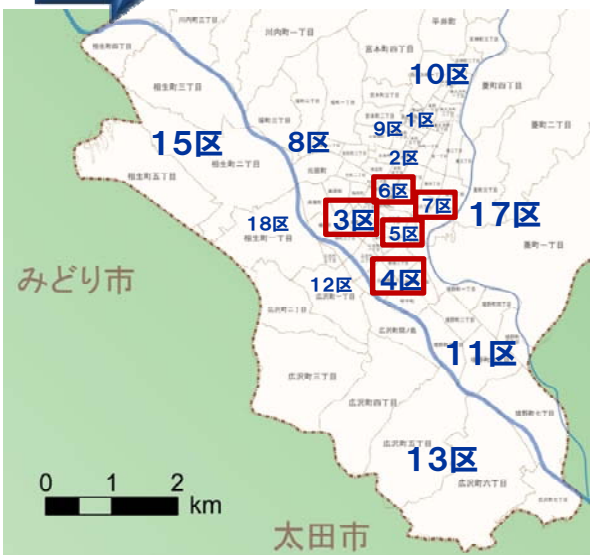
さらに、年齢が若くなるにつれて、カスリーン台風の認知率は低くなる傾向が顕著です。

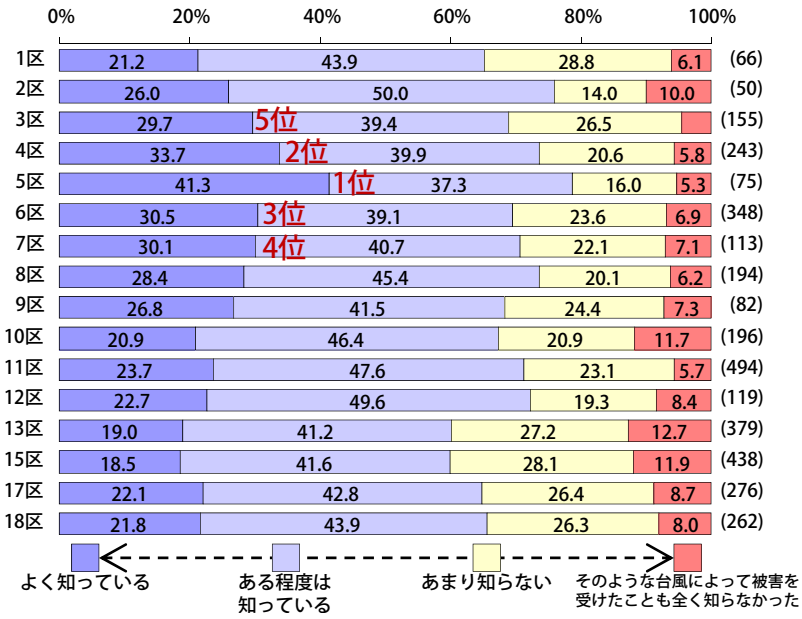
生年別にみると..



カスリーン台風の際に浸水した地域ほど、認知率は高くなっています。

地区別にみると..

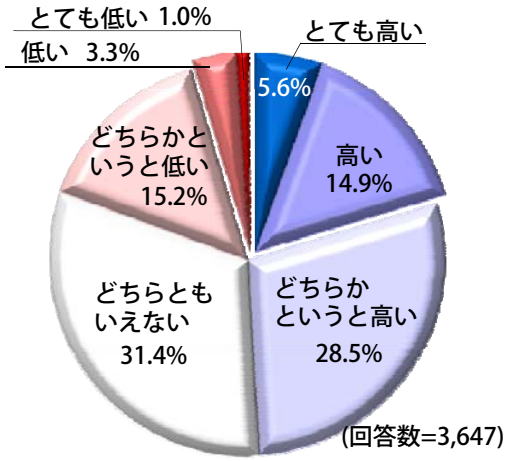




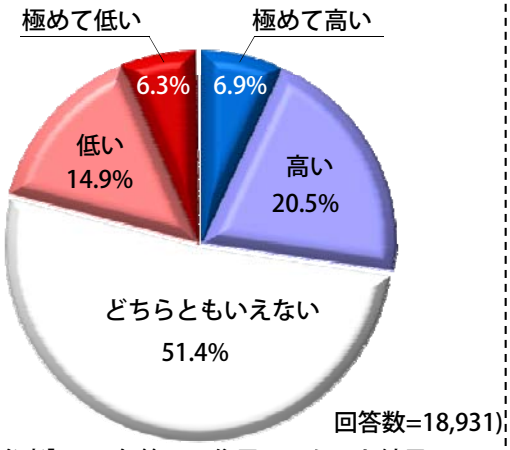
【水害をもたらす豪雨発生の可能性認識】

約半数の回答者が、河川が氾濫するほどの豪雨の発生可能性が高いと認識しています

Q.渡良瀬川や桐生川が氾濫するほどの豪雨が発生する可能性はどの程度だと思いますか？



今回調査

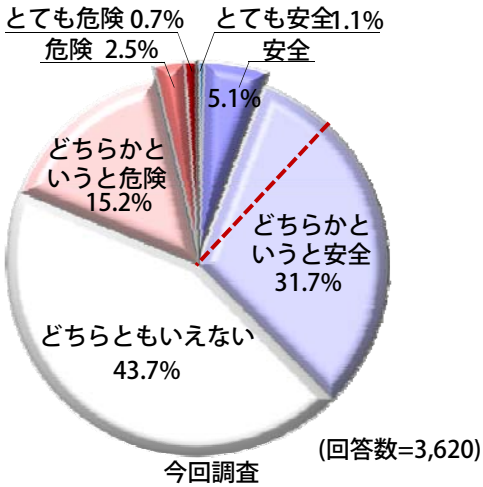


［参考］H11年第一回住民アンケート結果

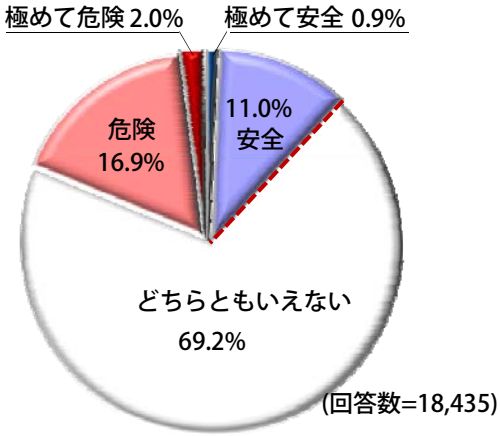
【桐生市の洪水に対する安全性に関する認識】

洪水に対して「安全」と認識している人の割合が、「危険」と認識する人の割合を大きく上回っており、
10年前と比較すると「安全」と認識している人の割合が高まってしまっています。

Q.洪水による人的被害や浸水被害に対する桐生地区の安全性はどの程度だと思いますか？



今回調査

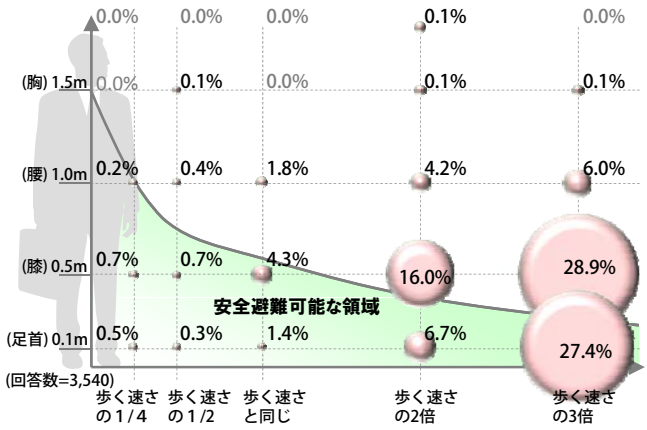


［参考］H11年第一回住民アンケート結果

【流れる水のちから(流体力)に対する認識】

多くの人が、川が氾濫した場合には相当な速さで市街地を流れ、その際は浅い浸水でしか歩けないと認識しています。
また、10年前と比較すると、流れる水の強さに関する正しい認識をもっている市民の方の割合が増えています。

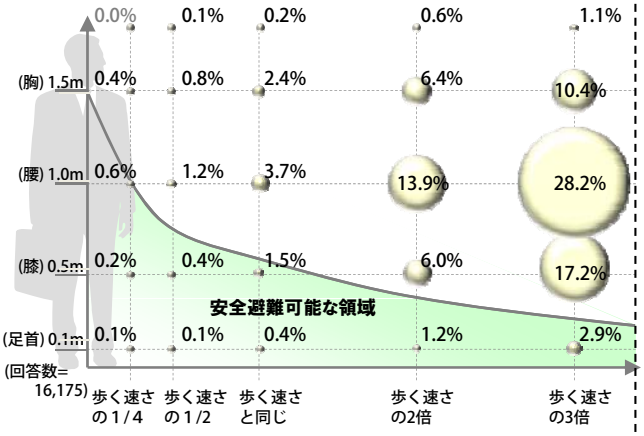
Q.もし渡良瀬川や桐生川が氾濫した場合、川の水は桐生市街地をどれくらいの速さで流れると思いますか？



Q.その際、どれくらいの深さまでなら、
水の中を歩いて避難することができると思いますか？

今回調査

Q.もし渡良瀬川や桐生川が氾濫した場合、川の水は桐生市街地をどれくらいの速さで流れると思いますか？



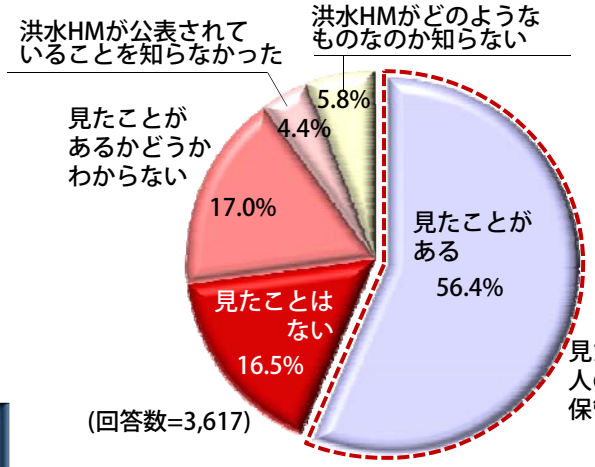
Q.その際、どれくらいの深さまでなら、
水の中を歩いて避難することができると思いますか？

［参考］H11年第一回住民アンケート結果

【桐生市洪水ハザードマップの認知・保管状況】

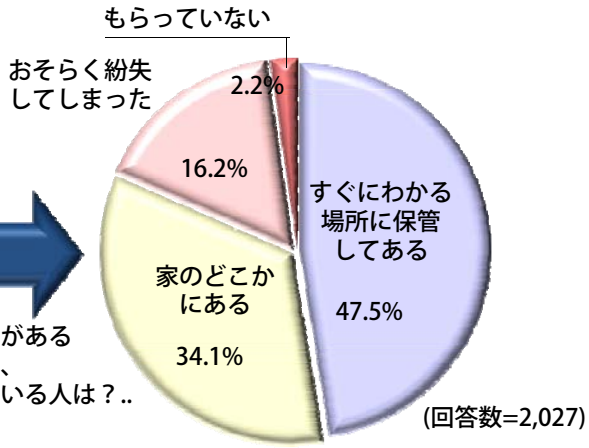
桐生市洪水ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟを見たことがある人は約半数に達し、その内の半数がすぐにわかる場所に保管しています。

Q.桐生市洪水ハザードマップを見たことがありますか？



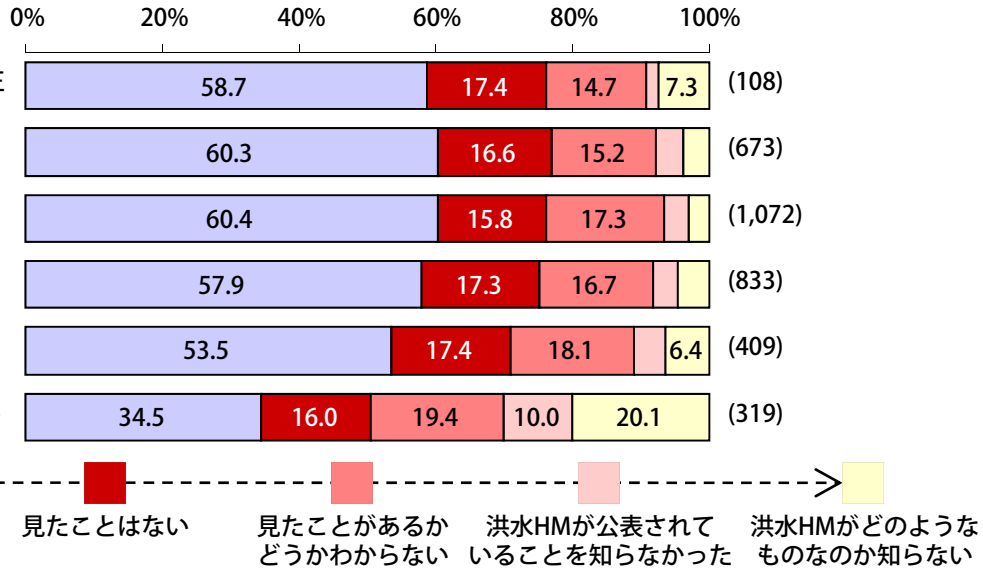
見たことがある人のうち、保管している人は？..

Q.桐生市洪水ハザードマップを保管していますか？

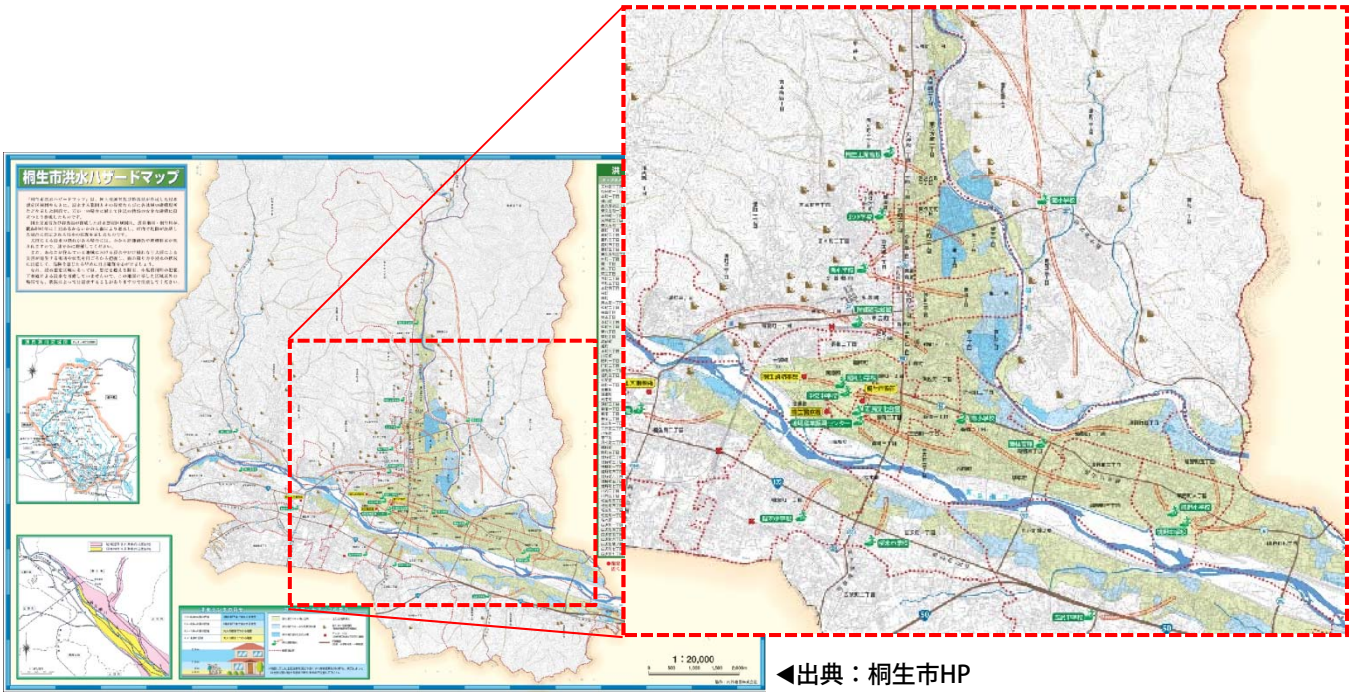


さらに、年齢が若くなるにつれて、
ハザードマップの認知率は低くなる傾向があります。

生年別にみると..



桐生市洪水ハザードマップ（H22.5更新）

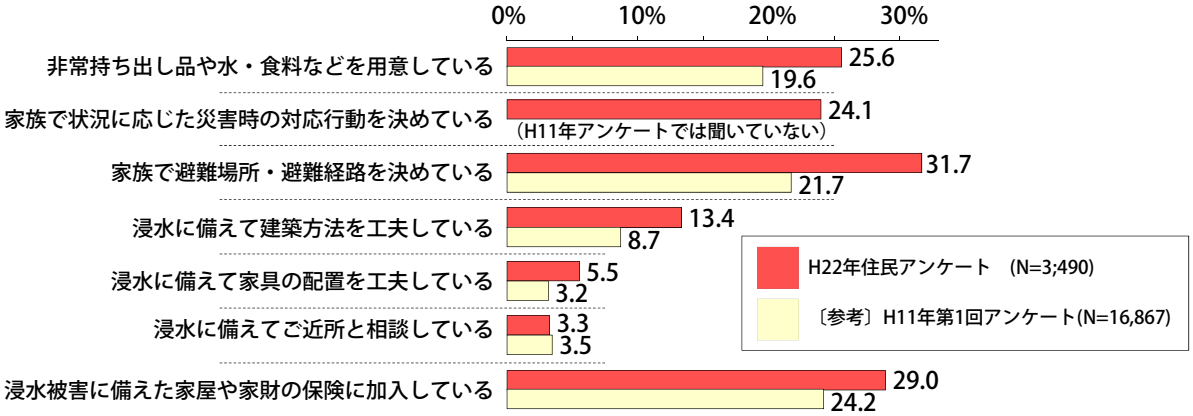


◀出典：桐生市HP

【洪水災害に対する備え】

10年前と比べると、家庭で行われている防災対策は、若干ですか増加しています。
しかし、多くても3割程度にとどまっており、対策自体は低調です。

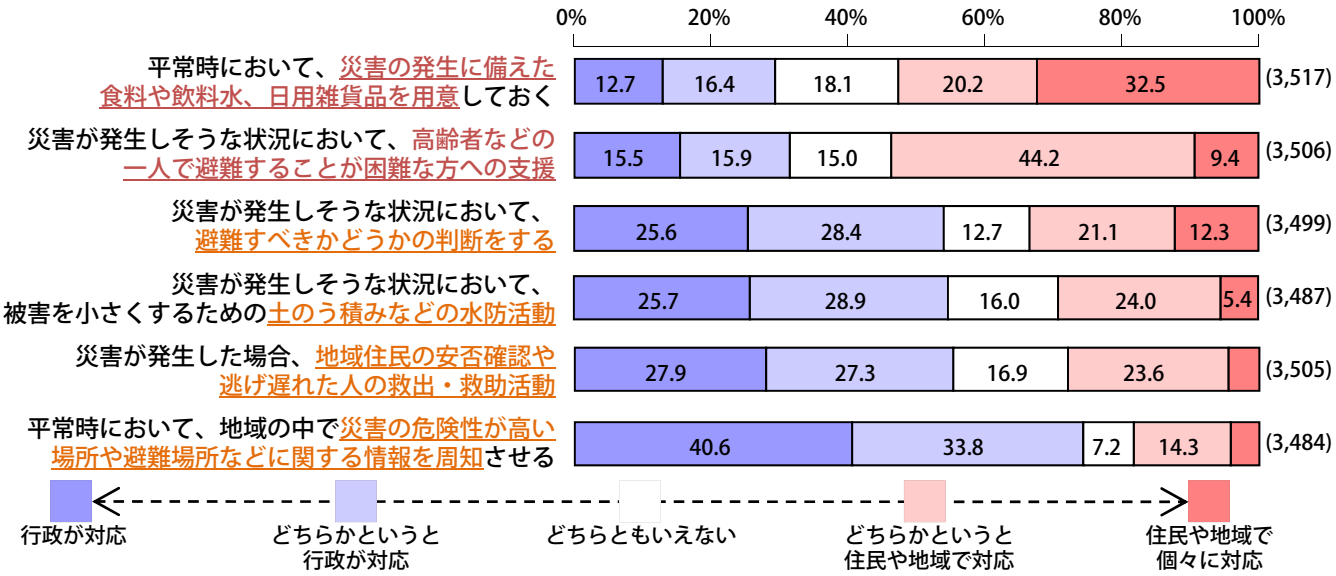
Q．あなたがお宅で行っている防災対策はありますか？



【災害対応に関する意識】

持ち出し品の準備、要援護者への支援・・・住民や地域でやるべきと答えています。
避難の判断、水防活動、危険情報・避難所の周知・・・行政がやるべきと答えています。

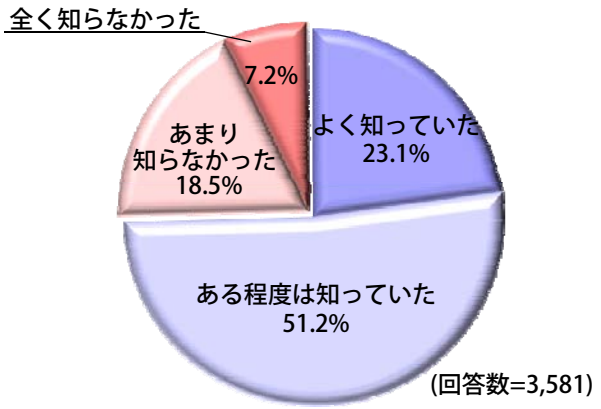
Q．上記の各防災対策は、誰が行うことが現実的かつ効果的であると思いますか？



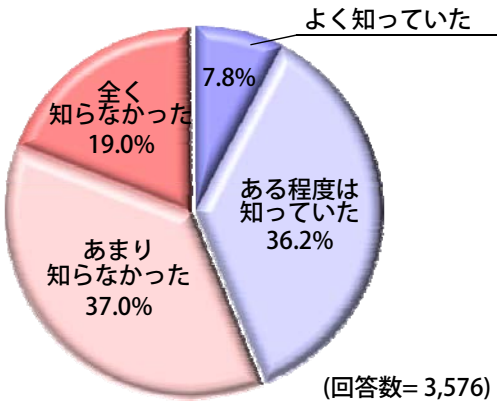
【気象警報・避難情報（避難勧告・指示）の認知度】

大雨・洪水警報などの気象警報と比較して、避難勧告・指示などの避難情報については
認知率が低く、半数以上の住民が知らないと答えています。

Q.気象庁から発表される気象警報について知っていましたか？



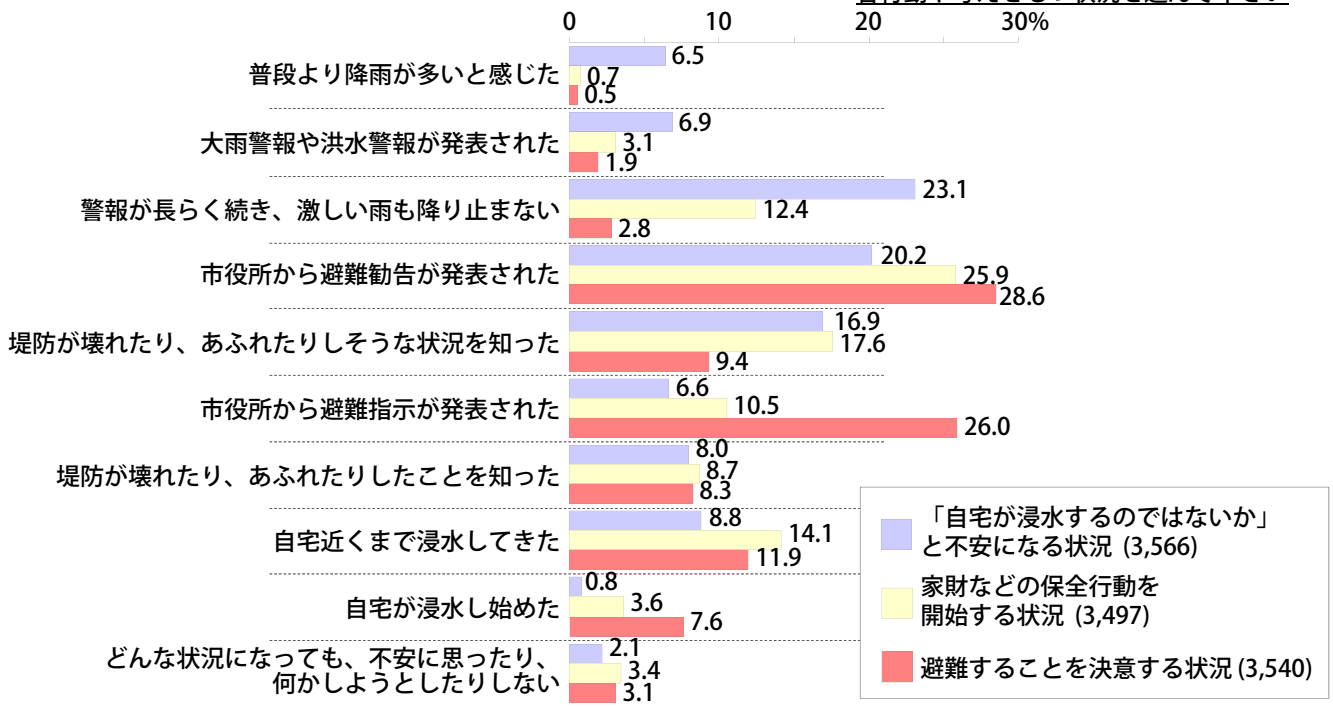
Q.市役所から発表される避難情報について知っていましたか？



【災害発生危険時の対応行動開始タイミング】

洪水時の対応のきっかけは、状況情報よりも行政からの避難情報と回答しています。
避難指示が発表されても避難することを決意しないと回答している住民が30%にのぼっています。

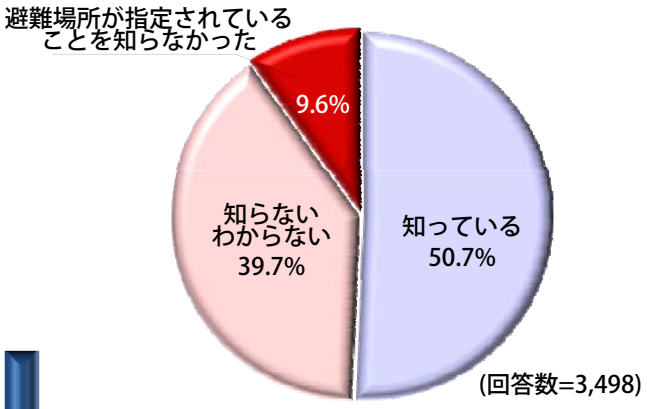
Q.雨が降り出してから、川が氾濫し、浸水が街中に広がっていくという水害時の一連の状況を想定して、各行動や考えをもつ状況を選んで下さい



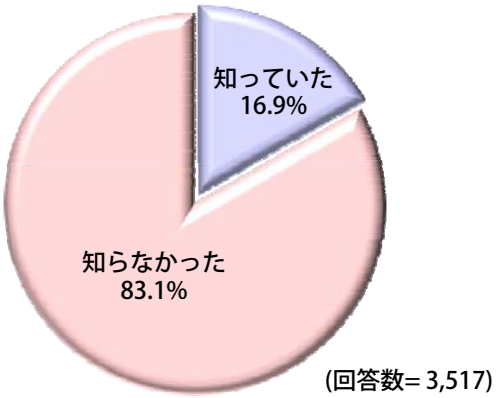
【避難場所に関する知識】

市が指定している避難場所を知っている住民は約半数にとどまっています。
さらに、住民のほとんどが風水害の時と地震の時で避難場所が異なることを知らない状況です。

Q.指定避難場所がどこなのか知っていますか？

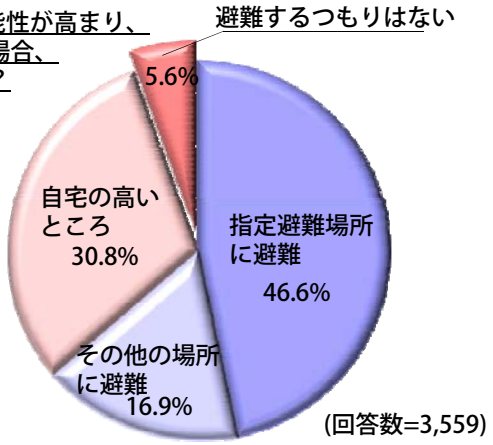


Q.風水害時と地震時では、指定避難場所が異なることを知っていましたか？



さらに、３０%の人は「自宅の高いところ」に避難する意向をもっています。

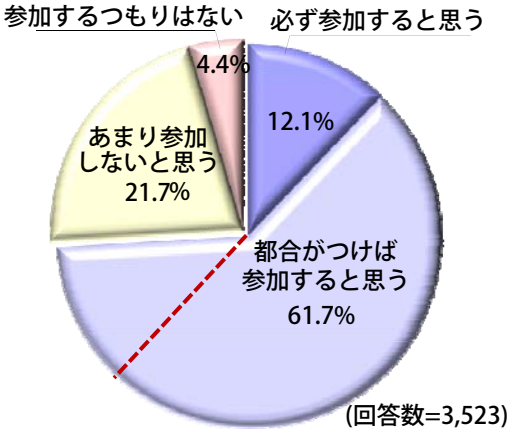
Q.渡良瀬川や桐生川が氾濫する可能性が高まり、避難しなければならなくなった場合、どこに避難しようと思いますか？



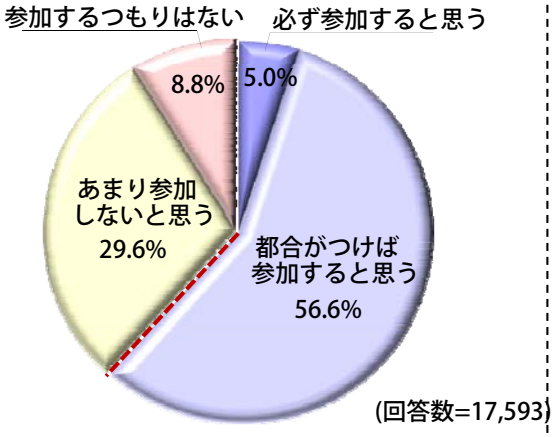
【防災訓練への参加意向】

１０年前と比較して、地域の防災訓練などへの参加意向は高まっています。

Q.今後、市や町内会等で防災訓練や防災の懇談会等が行われた場合、あなたは参加すると思いますか？



今回調査

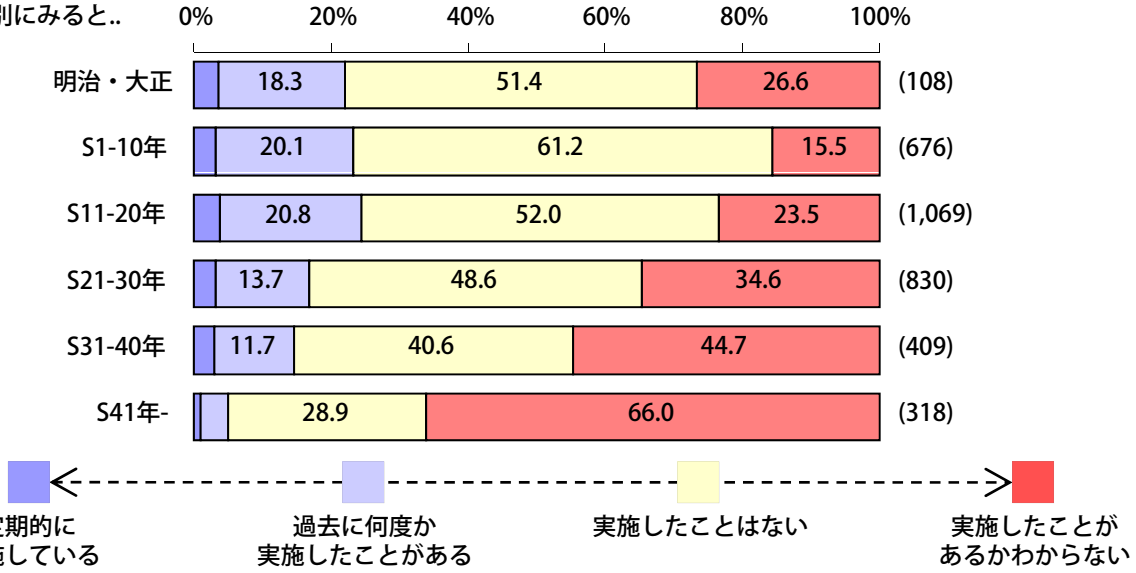


［参考］H11年第一回住民アンケート結果

しかし、実際の地域における防災訓練等の実施状況は非常に低く、
また若い世代ほど地域で訓練等を実施したことがあるかを知らない状況です。

Q．あなたがお住まいの地域では、防災訓練や防災に関する会合を実施したことがありますか？

生年別にみると..



【水害に関するアンケート結果のまとめ】

❖昨今のゲリラ豪雨等の多発などの影響もあり、水害に関する関心は高くなっていると考えられます。しかし、その関心は年齢が若くなるにつれ低下する傾向にあり、また、過去に桐生市を襲ったカスリーン台風の被害についてもその認知率が低下しており、被災経験や教訓の伝承が課題となりつつあります。

❖今後、桐生市に水害をもたらす豪雨の発生可能性への認識の高まりや流れる水のちからに関する正しい認識が高まり、さらに防災訓練などの参加意向が高まる一方で、洪水災害に対する備えや防災訓練の実施など、実際の行動にまではなかなか実践できていない状況が明らかとなりました。

❖災害時の対応に関しては、行政からの情報に頼る傾向が見られるばかりか、避難場所などに関して正しく認識されていない状況にあり、主体的な行動や災いをやり過ごす知恵を身につけることが大きな課題です。

桐生地区水害に強いまちづくり研究会